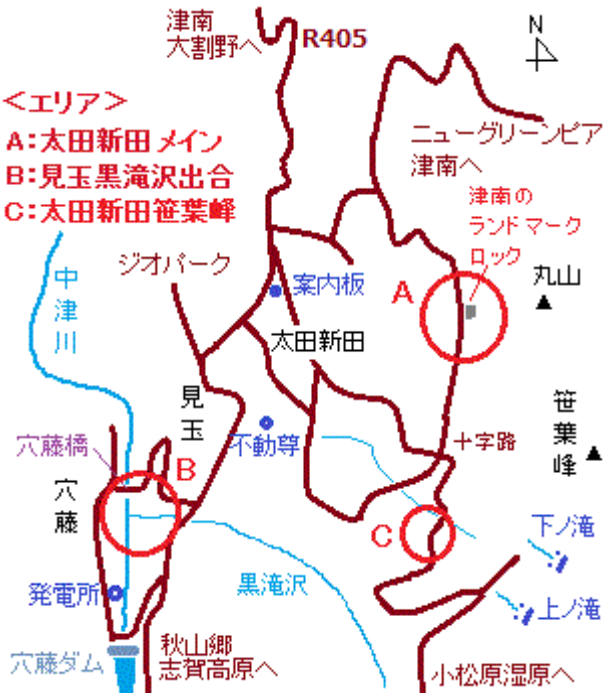
越後津南　太田新田ボルダー　Ver.2.00

令和 6 年 5 月 28 日　RCT/K



新潟県はクライミングエリア情報が非常に少ない地域である。多分、開拓されているエリアは幾つかあるのだろうが、豪雪地帯で年の半分は利用不可能となることから、利用者が少なくプライベートエリア同然となってしまい、公開はされていないのかもしれない。

このボルダー群は、発見後 10 数年以上になるが、開拓は遅々として進まず、毎年他のエリアも含め 2 から 3 回行く程度で毎回掃除から始まるため、各ボルダーの設定課題に対して十分なトライができているとは言えない。

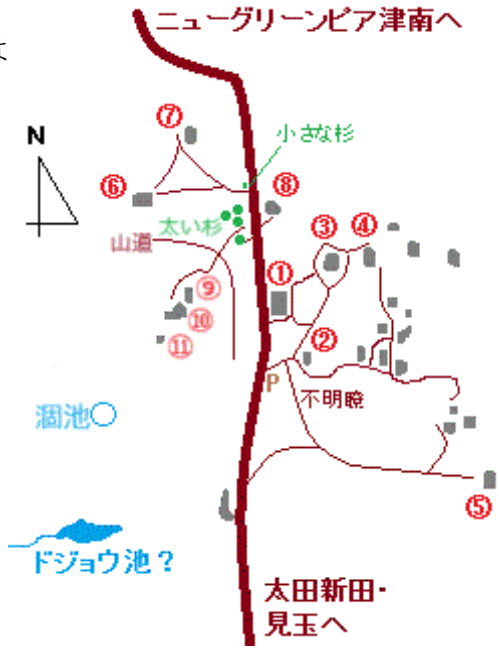
今回は平成 30 年時の初公開時に未トライだった⑧から⑪のボルダーをトライしてみたが、初期に開拓されたボルダー（①から⑦）は、現在、自然に還りつつあり再トライには掃除が必要である。

場所は豪雪地帯として有名な秋山郷の入口である太田新田地区にあり、近くの見玉地区には、この地方ではそこそこ名の知れた「見玉不動尊」がある。

ボルダー群の位置は、幹線の国道 405 号沿いではなく、ニューグリンピア津南側から続く林道沿いにある。

アクセスは、津南町大割野から国道を入るのが最も分かりやすく、太田新田地区に入ったら集落内を笹葉峰側の林道に抜けていき十字路を北方向に進む。きれいに整備された林道で、「津南のランドマークロック」が道路沿いの山側にあり、そのすぐ南側に駐車スペースがある。

各アプローチについては、地図を参照してもらいたいが、⑤、⑥、⑩のボルダーへのアプローチは、夏季には草が生い茂っていることが多く、非常に分かり難い。⑤は最初の草藪と灌木帯を抜ければ後は藪は無い。⑥と⑦の降り口は小さな杉の木が目印。⑨から⑪は⑧岩の反対側の大きな杉の木の辺りを南西方向に下り、山道を突っ切って灌木帯を抜けると岩が目に入る。



ボルダーの大きさは、大きいものでも 4m 程度、岩質は安山岩で、概ねしっかりしているが、一部板状摂理となっているボルダーもあり、剥離には十分注意を要する。

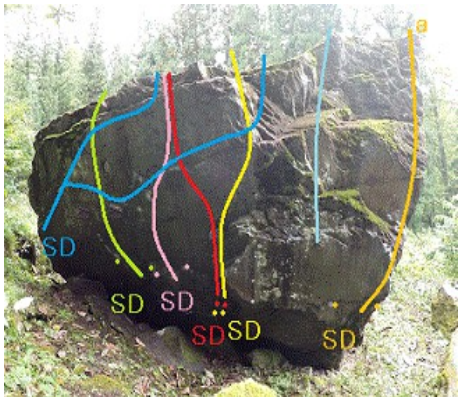
シーズンは、雪の消える 4 月末から 11 月初旬ぐらいまでであるが、遅くまで雪が残ったり、秋は時雨が降り続いたりと判断が難しい。その反面、梅雨入りしても東京付近より降雨量が大分少なく、ボルダーが長期間乾いていたり、夏は意外と涼しかったりする。しかし草が伸びて虫が多かったりするので、スプレー、蚊取り線香、鎌等は必携である。

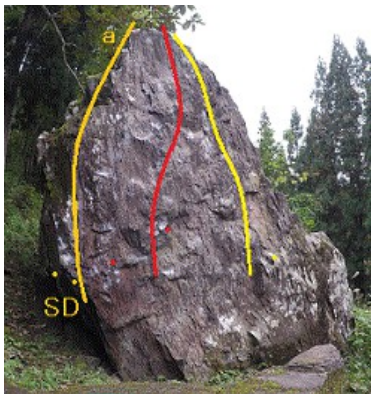
ちなみにこの周辺は春先には山菜が豊富であるが、地元のもの以外は採取禁止となっている。

《課題紹介》

●初公開時（平成 30 年）のボルダー

①津南のランドマークロック　（左：南面　中央：東面　右：北面）





林道の直ぐ脇にあり、アクセス時の目印であり、このボルダーエリアの象徴的存在である。北、東、南面に課題があり、未解決の課題も幾つかある。

なお、発見後の整備時に北面下には多量のガラス瓶の割れた瓦礫が捨ててあり、危険なものを回収したが、回収しきれないものを横に除けたり、少し埋めるような形で処理してある。一応危険はないと思われるが、トライの際には必ずクラッシュパッドを敷いて怪我のないようにしてもらいたい。

岩の上にボルトが埋めてあり、ボルダーの掃除用であるが、TR で使用してもらっても構わない。

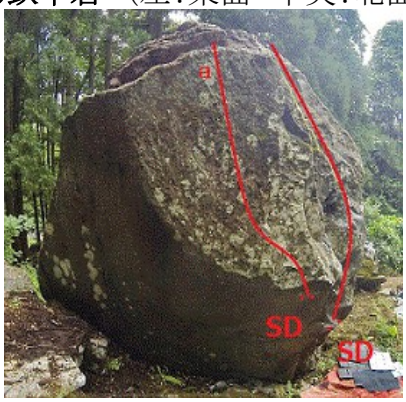
課題としては、南面の青（課題名：ビックリ箱　SD は未解決）、黄（課題名：朴葉焼き　SD は未解決）、東面の黄緑（課題名：田植時）、ピンク（課題名：風薫る）、北面のオレンジ（課題名：竹の子狩り）、赤（課題名：つなっぺ）辺りが楽しめる。なお、東面の水色ラインの SD は未解決である。

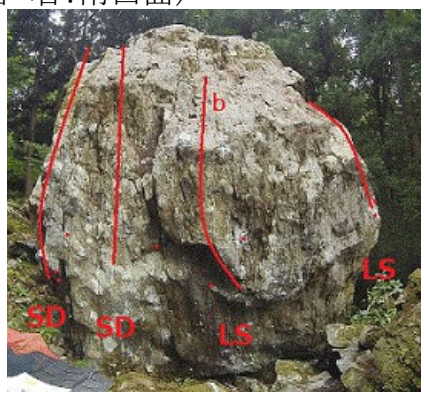
②筋斗雲ロック

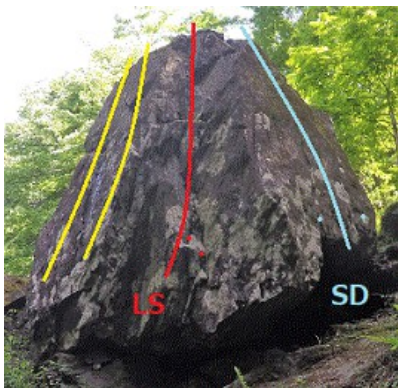
駐車スペースから山側に入ったところにある小さな岩。限定があり、下の挟まった岩から下は使用しない。

赤（課題名：孫悟空）より黄色ライン（課題名：孫御飯）の方が難しい。

③鉄平岩　（左：東面　中央：北面　右：南西面）



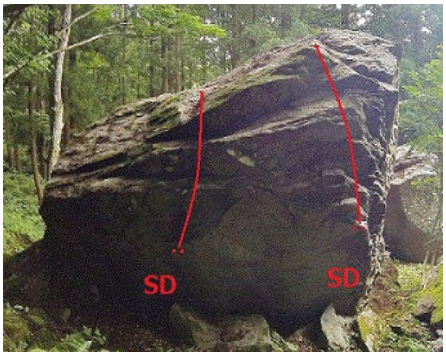


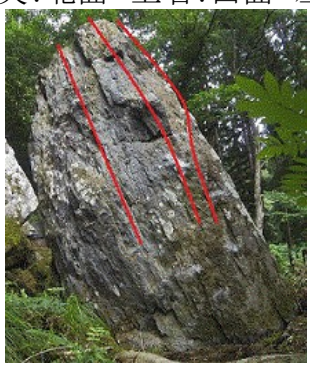


ランドマークロックから少し登った所にある岩。岩自体に板状摂理は無いが、周りに鉄平石が転がっている。岩上に掃除時の降られ止め用としてのボルト 1 本あり。

課題としては、東面の a ライン（課題名：クォータームーン）と北面の b ライン（課題名：鉄平君）が楽しめる。b ラインの右のハング直上は未解決である。

④上の鉄平岩 （上左：東面　上中央：北面　上右：西面　左：南面）



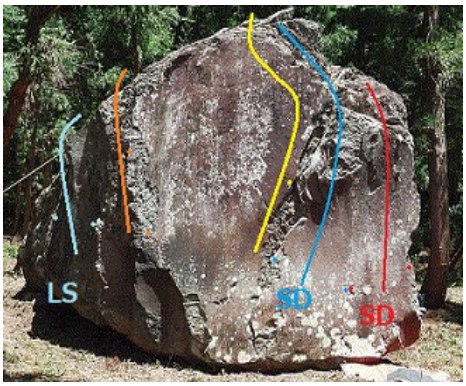


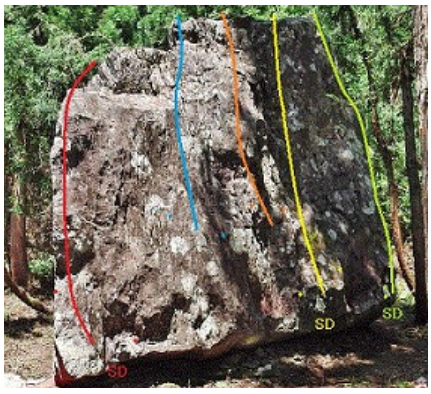
鉄平岩の直ぐ上にある岩。周囲四面に易しい課題が何本かある。
③同様上にボルト1本あるが、浅打ちなのでTRに使用しないこと。

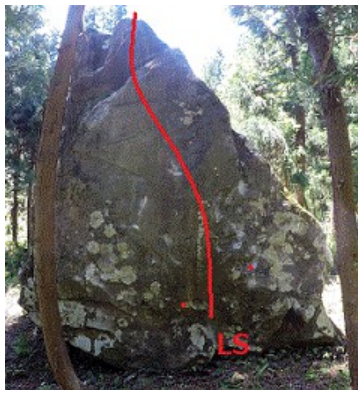
⑤クラック岩 （左：西面　右：南面）

少し山を登って行ったところの植林帯の中にあるきれいなクラックが入った岩。
各課題はそこそこ楽しめる。
　未解決課題として、クラック（課題名：ザ・クラック）のSDやその左右のフェイスのSDトライが挙げられる。

⑥シエスタロック （左：西面　中央：南面　右：東面）



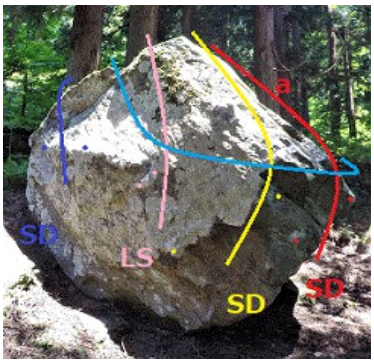


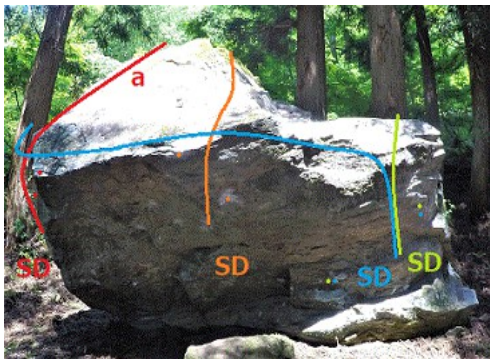


林道から下った平らな植林帯の中に、大きなボルダーが1つだけ転がっている。
　課題の本数は多いが、被りがなく、殆どが出だしが核心であり、面白いのは東面の赤ライン（課

題名：昼飯前　少し脆いので注意。トライ中に2回キーホールドが欠け、最初使用しなかったカンテよりの大きな縦ホールドを使用して解決した）ぐらいであるが、課題の設定の仕方で今後面白いラインができるかもしれない。
西面の黄色ラインはホールドより身体を左にして登る。
今後の課題としては、西面のオレンジと黄色ラインのSDトライが考えられる。

⑦ウサギ岩　（左：北面　右：西面）

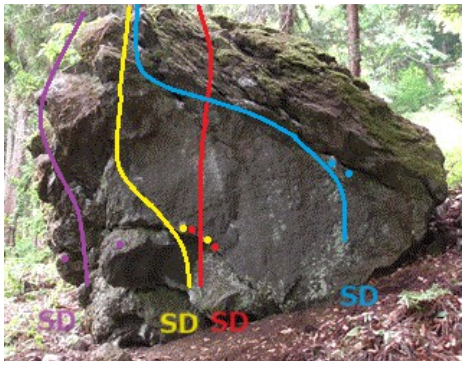




⑥に下る途中、右に見える小さな岩。岩の下にウサギの糞が沢山あった。
課題としては、青ライン（課題名：ピーターラビット）がまずまず楽しめる。
西面のオレンジラインは左手リップスタートだが、アンダーホールドスタートは未解決である。

⑧無名岩（令和6年開拓）

初期開拓で未トライだった岩。掃除をしたが上部の苔は落とし切れていない。下地はそこそこ安定しているが、岩の道路側や苔のついた上部など脆そうな部分があるので注意を要する。

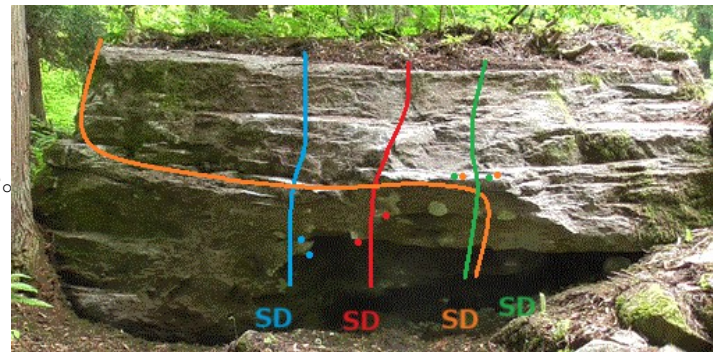


●涸池付近のボルダー（令和6年開拓）

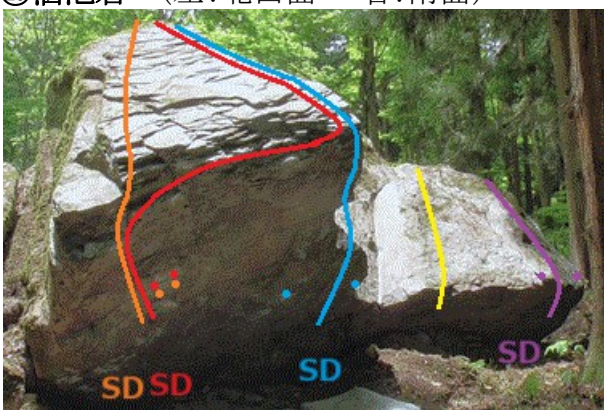
初期開拓時から存在は分かっていたが、藤蔓や藪に覆われており掃除が大変そうなので放っておいた岩。残雪が周囲にある時季は側に池が出現するが融けてしまうと涸れてしまう。ボルダーの南側は岩ころが多く植林や雑木が無いので、ぽっかりと日当たりの良い空間になっている。
今回改めて確認しに行ってみると、面白そうなハングもあって楽しめそうだったので、思い切って掃除をしてみたら予想以上に満足できるボルダーとなった。

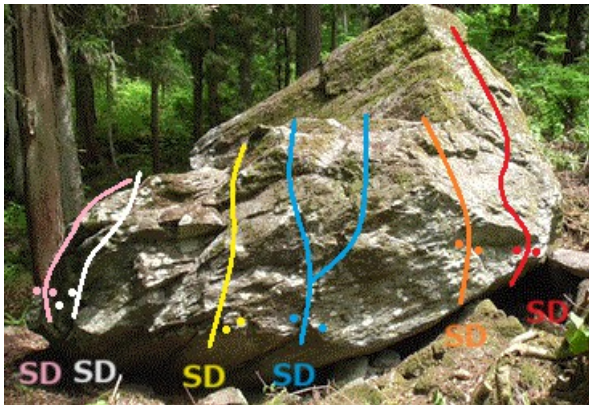
⑨無名岩

大きな水平ホールドがある横長の岩。雨後は上から水が垂れてきて乾きにくく苔が発達しやすい。
右側のハング辺りが苔も少なく登りやすい。



⑩涸池岩　（左：北西面　　右：南面）





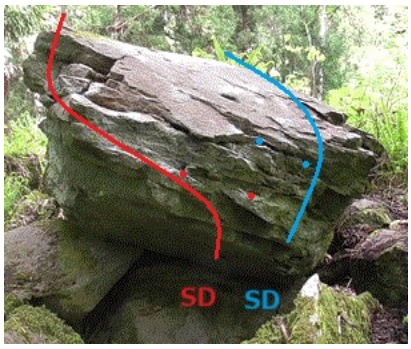
3m 程の少し大きめの岩で南面と北西面に多くの課題がある。

北西面の「涸池ハング（赤ライン）」は、ハング左下から入り、リップ付近を右カンテまでトラヴァースして上部カンテに這いずり上がる。適度な被りでガバが続き面白い。

黄色ラインはノーハンド。

南面の青ラインは、両手小カチから左手を小ホールドにとばしたら右手で斜めのホールドを取るが、上部は直上と右抜けがある。

赤ラインは、ハング上の小カチからスタートし、少し左回りに極小ホールドだけを使ってトップまで抜ける。足の限定はない。

⑪無名岩

少し南に離れた位置にある小さなハングした岩。2 本課題があり、下がルーフ状だがどちらも良いホールドがあり易しい。